

# 着先での待機実態の可視化による拘束時間の削減 宮崎県

## 1. 実施集団の概要

- 荷主企業：発荷主A(農業団体)、着荷主B(卸業者)
  - 発荷主Aは単位農協を組合員とする連合組織であり、県全域の各単位農協が県外に出荷する青果等を取りまとめて加工・販売(委託販売)・物流する機能を担っている。
  - 着荷主Bは関東の市場で事業を営む青果卸業者である。
- 運送事業者：運送事業者ア(元請)、運送事業者イ(下請)
  - 運送事業者ア(元請)は、発荷主Aの関連会社である。実運送と利用運送事業を行っている。
  - 運送事業者イ(下請)は、宮崎県に本社を置く運送事業者。青果センターから関東・関西等への遠距離輸送を担当しており、農産物の輸送を主事業としている。
- 荷種：青果物

## 2. 事業概要

### ①ドライバー調査による実態把握

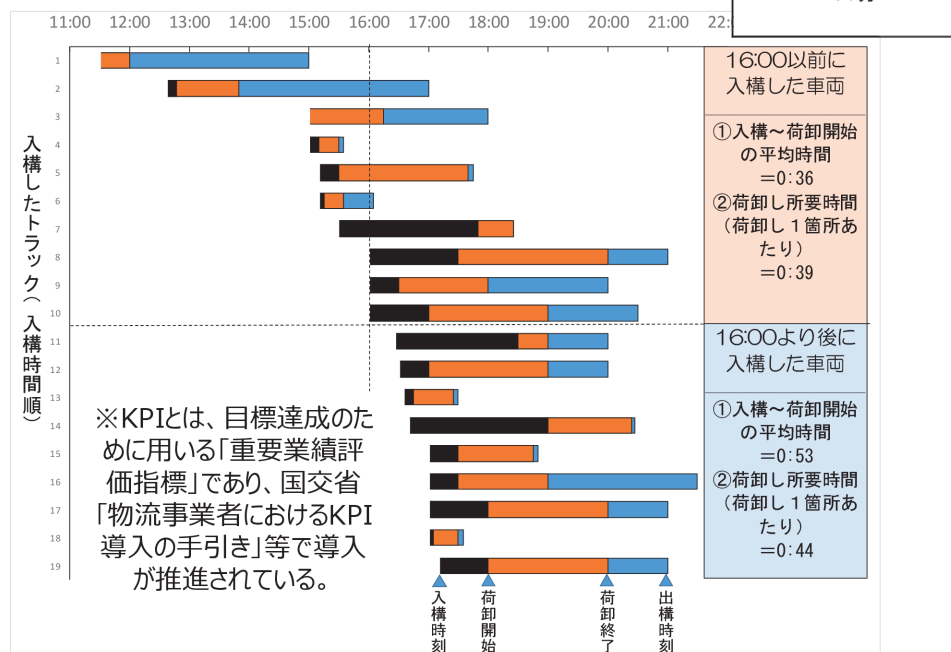


#### 実施により分かったこと

- 平均3箇所ほどで荷卸しを実施
- 入構から荷卸しまでの待機よりも荷卸しの所要時間の方が6割ほど長い
- 早い時間帯に入構すると所要時間が短縮できる

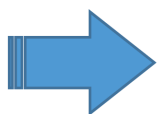
等々

### ②実態の分析→KPI※による改善のPDCA構築へ



### ③改善策の実施→荷卸し業務手順書(マニュアル)策定

課題(抜粋)	手順書における対策(抜粋)
入構時間による対応の差	①日勤、夜勤の時差出勤導入 ※実際に業務時間として1時間のクロス時間を設ける
荷卸しの順番が不透明	②送り状をもとに入場順位を指示する司令塔の配置 ③司令塔より直接ドライバー携帯電話に連絡



調査によってドライバーが抱える不満等が浮き彫りとなり、それを改善するための具体的な対策(手順書)の立案、実施。これにより、荷卸し所要時間が削減。

### 3. 課題

- ① 当市場は東京の主要卸売市場の一つであり、狭隘化している。その中で荷卸しに利用できるエリアが十分に取れないなどの問題を抱える。
- ② 荷卸しのルールが明確でなく、ある種現場任せとなっている。例えばキュウリ、トマト等の品種別にバラバラに荷卸しされるなどの非効率があり、業務手順の見直しが課題である。

### 4. 事業内容

- ① ドライバー調査による待機の実態把握。
- ② 調査から実態を分析し、KPIによる改善のPDCA構築。
- ③ 改善のための施策として、荷卸し作業に関わる業務手順書(マニュアル)を策定、実施可能な項目から順次実施する。

### 5. 結果

- ① 従来明確でなかった待機の実態が可視化され、着荷主にも問題が共有された。
- ② 荷卸し作業の業務手順書を策定し、仕事のやり方を見直すことにより、荷卸し時間の削減が見込まれる。
- ③ 改善の取り組みを今後も継続することとなり、定着化への流れを作ることができた。

### 6. 荷主企業のメリット

- ① 運送事業者から荷卸しの遅延等へのクレームがあったが、クレームの原因への対処ができた。
- ② 運送事業者が改善基準告示の遵守が困難な運行を行わざるを得なくなるリスクが低減した。
- ③ 一度限りでなく、着荷主との間で改善活動を継続する基盤ができた。

### 7. 結果に結びついたポイント

- ① 定量的な実態を把握したこと。
- ② 双方が抱える問題点・不満点の忌憚のない意見交換ができたこと。
- ③ 着荷主もドライバー不足等の物流問題へ認識が高く、連携して取り組めたこと。